



—東地中海地域ニュース—

シリア：バッシャール大統領の発言

(10月22日付シリア国営通信社)

10月22日、シリアを訪問したハロネン・フィンランド大統領との共同記者会見での、バッシャール・アサド大統領の発言の要旨は、以下の通りである。

1. 中東和平について

- (1) 安保理決議、土地と平和の交換原則、マドリード会議での採択事項といった和平プロセスの諸原則が和平達成のための唯一の方策であることは当然である。
- (2) 占領と和平がひとつの場所・国の中に共存することはあり得ない。占領国家が和平のための努力をしていると主張することは出来ず、イスラエルはいずれかを選ばねばならない。我々は、真の和平を実現する合意達成のためのイスラエル側のパートナーを必要としている。

2. パレスチナ和解

- (1) 我々は、パレスチナ・トラックの和平に向けた交渉に至るためのパレスチナ和解プロセスに対するシリアの支持を強調した。
- (2) ガザの封鎖に関して、パレスチナ・トラックの和平に向けた主要な重点のひとつとして、同地区の苦境を緩和する必要性について話し合った。

3. レバノン問題

自分は、レバノンが情勢を正常化し、永年の混乱と分断を終えて本来の役割を発揮するため、挙国一致内閣の組閣を加速する必要があるとのシリアの立場を確認した。

4. オバマ米政権の中東和平への立場

- (1) 我々は、オバマ大統領が選挙期間中及びその後に掲げた、アラブ・イスラエル紛争やイラク撤退に関する指針に同意する。しかし、これらの問題は複雑であり、シリアを含む当事者との間で細部事項に関する話し合いなくしては、目的達成に向けた実施可能な計画の策定は出来ないが、まだそのような話し合いは行われていない。
- (2) 時間をかけることは和平プロセスに資することはなく、スピードが必要であり、それゆえに欧州の役割が重要となる。ハロネン大統領との会談では、この極めて重要な時間を無駄にしないために、米政権の協力のもとに和平達成に向け、我々は EU 及び欧州諸国と

同調して行動する必要があると話合った。

## 5. イランの核問題

世界中のいかなる核問題の扱いも、一部の政府高官や政治的アジェンダに従うべきではなく、NPT に従うべきである。シリアは本問題につき欧州諸国と詳細を協議しており、又、中東での安定を保障するような問題解決に資するアイデアを提供している。

## 6. シリア外交の優先順位

- (1) シリアの優先事項の一つは、アラブ諸国及びトルコのような周辺国との関係強化である。シリア・トルコ関係は模範とされるべき関係である。
- (2) また、中東和平達成、及び和平において重要な役割を持ち不可欠な貢献をする欧州諸国や米国等の中東和平関心国との協力関係構築も優先事項である。
- (3) 更に、地域におけるテロや急進主義との闘い、地域における国民経済の改善にも言及する必要がある。